

平成24年度（2012年度）  
学校関係者評価委員会報告書

2013年6月

学校法人 新潟高度情報学園

新潟高度情報専門学校

新潟高度情報専門学校が掲げる、技術者の養成に合わせ、教養・人格度の高い道義・礼節・作法をも身に付けた、人間性豊かな技術者及び実務者を育成するという目的において、自らの教育活動その他の学校運営について、社会のニーズを踏まえた目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価・公表することにより、学校として組織的・継続的な改善を図ること、および、学校評価の実施およびその結果の公表を適切に行なうことで学校関係者等から理解と参画を得て、地域におけるステークホルダーと専修学校との連携協力による特色ある専修学校づくりを推進するべく、自己評価、学校関係者評価を行う。

以下、平成24年度の自己点検・自己評価結果をもとに、学校関係者評価の実施結果を記す。

## ○総括

- ・教務課が掲げる学校・学科の目指す育成人材像に近づけるための教育課程の編成および企業からもとめられる技術的な育成レベルの把握およびカリキュラムへの落とし込みについて、学外委員から紹介された問題解決型授業を取り組んでいる大学等教育機関等の状況を参加にし、更に地元企業との交流・連携を深め、学科長が中心となり有意義な情報を収集し次年度の教育編成に取り入れるため行動する。コンピュータ業界不人気のなか学校の特色を確立し、入学者数および学校運営を安定させ、人間力・技術力ともに優れた学生の輩出するため、入学広報担当と協力し学生募集にあたる。
- ・質の良いヒューマンスキル教育・技術指導を向上させるため、教育職員を企業や外部の研修会に参加させスキルを向上させたい。また得た情報は教務全体で共有を図る
- ・防災対策として、地震・津波における行動マニュアルを加味・更新する。

## 1. 教育理念・目的・育成人材等

### 質 問

・「技術レベル」「企業が求めるレベル」といっても企業毎に異なっており、線引きが難しいのではないか。

### 応 答

・企業入社後の最初の技術研修実施後のスキルレベルよりも、当校で修得した技術レベルが上になるよう検討し、カリキュラム構築している。もちろん、企業によって要求されるレベルは異なるため、教務課も多くの企業から協力していただき情報収集を行い、摺合せをするなかで新潟高度情報専門学校を目指す到達レベルとして定義したい。

他 学力差のある学生等を指導するうえで、個々の学生に対応できる適切な実習課題の用意や評価方法について話がなされた。25 年度については、企業の求める技術レベルを把握することと、学力差の学生間でも対応できる課題の作成を行うことを検討した。また、当校では大学のような各種資料がまとまった学生便覧が無いため、在校生・入学希望者等に情報提供するためにも当校の資料をまとめ、学生便覧を作成することを計画する。

## 2. 学校運営

参考にするため、当校のセキュリティ設定について現状を報告し、委員の所属する企業の情報システムにおけるセキュリティやアクセス管理や設定について確認した。当校のアクセス管理についてはまだ、しっかりとした対策が施されていないため、25 年度はルール化してアクセス管理を実施することを計画する。

## 3. 教育活動

### 質 問

・学生のコミュニケーションスキルの向上に取り組む PBL は学年を跨いで実施するのか。  
PBL をカリキュラム構成の中心に据えた大学もあるので参考にしているかどうか。

### 応 答

・1, 2年生が学科を跨ぐことも、学科をこえて実施することある。問題解決をコンピュータに限らず取り組んでいるが、PBL のテーマとして学生の習熟度に合わせ、コンピュータを使った問題解決を行うことや企業から協力いただき進めることも検討している。

他 現状報告をする中で、25年度や今後の取り組みについて報告する。

- ・教科担当による履修内容を一任する教科目もあるため、各学科における教務課長が中心となり、企業ニーズを把握する。
- ・大学併修科は提携大学(帝京大学宇都宮キャンパス情報科学科)との単位認定科目において新潟高度情報専門学校らしさを取り入れ、特色あるカリキュラムとなる様毎年構築している。
- ・ゲーム業界に合わせて、履修内容の変更が多く速やかに対応が求められるため、学科構成や在籍年数に合わせたカリキュラムに毎年変更を加えているが、苦慮している。
- ・尻込みする学生が多く、他の人接触することを好まない学生もいる。入学時のオリエンテーション時からコミュニケーションを取る仕組みを特別授業だけでなく、日々の生活・遊びや授業を通じて、コミュニケーション力の向上について取組み改善する。

#### 4. 学習成果(教育成果)

各学科に設定された資格試験に合格するため、対策期間等を設け演習に取り組むことや、作品制作のため集中して取り組んでいる。また、試験後の状況については分析を行い、次の対策時に比較資料とするこみとは毎年取り組んでいる。

#### 5. 学生支援

姉妹校と共通の専任カウンセラーを配置していたが、うまく連携が取れずにいる。  
保健室の整備を行った。精神的に弱い学生のよりどころに繋がる様に、養護教員の配置を検討している。

#### 6. 教育環境

##### 質 問

- ・無人購買システムが災害時、食糧確保にも役立ちよい取組みと思う。
- 他 貯水槽を改造し、災害時水を出せるように改造した。また、キャンパス等には非常電源設備を設置し緊急時は本校舎以外で電気の供給は可能になっている。
- ・防災マニュアルが古く、また、津波を追加した災害時の行動計画の策定をすすめる必要がある。

## 7. 学生の募集と受け入れ

### 質 問

・退学率はどのようになっているか。入学時，2年目3年目追跡調査を行ない，相関関係から退学につながる原因を分析してはどうか。

### 応 答

・毎年度法人立理事会資料等にまとめ報告等も行っている。退学率でいえば在籍人数が少なく1人2人で大きく数値が変わってしまうため，他にもドロップアウトに対しての目標値等を設定し対応している。

## 8. 財務

安定した学生募集を継続できるよう取り組み，入学広報担当との連携を図り入学希望者の増加を図る。

また，税理士に依頼するとともに複数の職員配置により内部牽制を行うことで，適性に対処している。

## 9. 法令等の遵守

学則変更の機会に合わせ，基準の確認をしている。新たな法改正や通達事項等について，該当する教職員へ周知・説明についての履歴管理を計画している。

現在自己点検・自己評価や学校関係者評価については，求めに応じで行っている。25年度からは広く周知できるように検討する。

以上